

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 10 日現在

機関番号：82406

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26671019

研究課題名(和文)医療施設における高齢者看護の質評価指標の開発

研究課題名(英文)Development of quality indicators of geriatric nursing in hospital settings

研究代表者

松井 美帆(Matsui, Miho)

防衛医科大学校(医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究・その他・教授)

研究者番号：60346559

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：医療施設における高齢者看護の質指標候補について先行研究のレビューを行い17領域80項目の質指標候補を作成した。老人看護専門看護師9名を対象にRAND/UCLA適切性評価法による2回の質問紙調査を行い、1回目評価では中央値7以上の適切が80項目中78項目、4～6の中間が2項目、1～3の不適切は認められず、2回目評価では80項目全てにおいて適切であった。次いで、高齢者看護の実践状況を明らかにするため、看護師101名を対象に無記名の自記式質問紙調査を行った。50%以上がよく実施していた項目は4項目、40～50%未満は6項目で、清潔ケア、口腔ケア、身体抑制などで等が多く認められた。

研究成果の概要(英文)：This study developed quality indicators of geriatric nursing in hospital settings according to literature review. Twice questionnaire surveys were conducted to evaluate using RAND/UCLA appropriateness method directed to 9 certified nurse specialists. In the first evaluation, 78 of 80 items were appropriate or more 7 median, 2 items were 4-6 median, and no times 1-3 median. Secondly, all 80 items were appropriate. Next, a study of geriatric nursing practice was conducted using a questionnaire to 101 nurses. Frequent implementation or over 50% were 4 items, 40-50% were 6 items such as bed bath and oral care.

研究分野：老年看護学

キーワード：質評価指標 高齢者看護 医療施設

1. 研究開始当初の背景

高齢社会のさらなる進展により、医療・介護における高齢者ケアの質の向上が求められている。介護保険制度ではサービスの質の向上を目指して、各介護サービス事業所において外部評価である第三者評価の実施や公表、高齢者ケアに関わる質評価の開発や検討が行われている。

一方、医療施設では入院患者の約6割を70歳以上の高齢患者が占める中、高齢者看護の質の評価と向上が望まれるが、高齢者看護に関わる質評価指標の開発については、訪問看護や認知症ケアにおいて取組みがみられるものの、十分な検討が行われているとは言い難い。

治療のために医療施設に入院する高齢者は、安静や疼痛、慣れない入院生活からせん妄や老年症候群などを起こすことがあるため、生活機能の低下を防止し、退院へ向けて自立した生活が送れるよう支援する看護が求められ、高齢者看護の質評価指標の開発と看護実践を検証していくことが重要である。

2. 研究の目的

- (1) 医療施設における高齢者看護の質の指標(Quality Indicator : QI)を作成する。
- (2) 高齢者看護の質評価指標を用いて、医療施設における看護実践について検証を行う。

3. 研究の方法

(1) 研究1

質指標候補の作成

医療施設における高齢者看護の質指標候補を作成するに当たり、はじめに領域を検討するため、既に国内外で発表されている指標やガイドライン、関連図書として Assessing Care of Vulnerable Elders (ACOVE) (Wenger et al, 2003)、Geriatric Nursing Protocols for Best Practice (Boltz, et al, 2012)、高齢者訪問看護の質指標 (石垣ら、

2008)、インターライ方式・施設版 (天野ら、2012) などについてレビューを行った。領域の選定については、これらのレビューの多くにおいて用いられた12領域を始めとして、一部において用いられていたが基本的なものとして「意思決定」「清潔ケア」「排便」、さらに医療施設という環境において重要である「せん妄」「身体抑制」の計17領域を対象とした。次いで、これらのレビューをもとに選定された各領域について質指標候補の作成を行った。質指標候補の作成の際は、前述の高齢者訪問看護の質指標 (石垣ら、2008)、一般社団法人日本病院会のQIプロジェクト指標 (一般財団法人日本病院会、2016)、日本看護協会の質指標 (日本看護協会、2016) なども参考とした。また、項目数を全領域で100以内と限定していることから質指標による実践状況を検討する際に医療の質の評価において重要と考えられるプロセスの中でもアセスメントについて各領域における候補に含まれるようにした。最終的に17領域80項目の質指標候補を作成した。17領域と各項目数は「看護師情報」5項目、「患者情報」3項目、「包括的アセスメント」3項目、「意思決定」5項目、「清潔ケア」5項目、「口腔ケア」5項目、「栄養」5項目、「尿失禁」5項目、「排便ケア」6項目、「褥瘡予防」5項目、「疼痛マネジメント」4項目、「転倒予防」7項目、「せん妄」4項目、「認知症ケア」5項目、「アドバンス・ケア・プランニング」4項目、「身体抑制」5項目、「退院支援」4項目であった。

専門家パネル委員の選定

RAND/UCLA 適切性評価法により質指標候補について評価を行う専門家パネル委員として、医療施設における高齢者看護の質指標を作成することから、わが国における老人専門看護師を対象に選定を行った。老人専門看護師への依頼は、日本看護協会ホームページの名簿に掲載されている対象者から所属先

が医療機関である 10 名に対して行った。

RAND/UCLA 適切性評価

作成した各質評価指標について、RAND/UCLA 適切性評価法により QI の適切性について 1 (極めて不適切) ~ 9 (極めて適切) の評価を郵送法により 2 回行った。質評価指標の適切性として、「医療施設における高齢者看護として行うべきことである」、「行っていないことが高齢者看護の質の低さに通じるかどうか」という基準で該当する番号 1 つにし、コメントがある場合はコメント欄に記入するよう依頼した。9 段階評価において、中央値が 1~3 は不適切、4~6 は中間、7~9 は適切とした。1 回目評価は平成 28 年 6 月、2 回目評価は 3 週間後の 28 年 7 月に行った。

倫理的配慮

本研究の実施に当たっては所属機関の倫理審査委員会の承認を得て実施した。専門家パネルには文書を用いて本研究の目的、研究依頼内容、評価を 2 回行うことおよび記載事項に確認が生じた際の連絡先として、評価用紙にパネル委員の氏名、メールアドレスについて何うことを明記し、本研究に参加の同意のみられた委員から文書で同意を得た。

(2) 研究 2

対象者

本調査に同意の得られた関東圏内の医療施設 6 施設における看護師を対象とした。平成 29 年 1 月~2 月において、対象者には看護部を通して質問紙の配付を行い、郵送法にて回収を行った。

調査内容

基本属性として年齢、性別、看護経験年数、高齢者看護の実践状況について前述の質評価指標の看護師情報、患者情報を除く、15 領域 72 項目について「1. 全く行っていない」~「5. よく行っている」の 5 件法で尋ねた。

分析方法

各項目について単純集計を行った。

倫理的配慮

本研究の実施に当たっては所属機関の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

4 . 研究成果

(1) 研究 1

専門パネル委員として依頼を行った 10 名のうち、8 名から同意が得られた。さらに、2 名に追加依頼を行いこのうち 1 名から同意が得られ、計 9 名のパネル委員による適切性の評価を行った。

適切性評価 (1 回目)

全てのパネル委員(9 名)から調査票を回収した。80 項目中 78 項目が評価として適切であり、中央値が 6 以下の項目は 2 項目で、ともに「看護師情報」の「1. 常勤看護職員数」「2. 新人看護師の割合」で 6 の中間の評価であった。また、7 以上と回答した割合が低かった項目は前述の 2 項目に加えて、「患者情報」の「6.75 歳以上の高齢者の割合」「7. 85 歳以上の高齢者の割合」「8. 認知症高齢者の割合」であった。一方、7 以上と回答した割合が 100%であった項目は 29 項目あり、「褥瘡予防」「疼痛マネジメント」「せん妄」の領域では全項目において 100%であった。

適切性評価 (2 回目)

1 回目の適切性評価において不適切な指標は認められなかったため、同様の 17 領域 80 項目について約 1 カ月後に 2 回目の適切性評価を実施し、全てのパネル委員(9 名)から調査票を回収した。その結果、80 項目全てにおいて中央値 7 以上で適切と判断された。7 以上と回答した割合が 55.9%と低かった項目は「2. 新人看護師の割合」「26. 必要時に歯科医師・歯科衛生士へのコンサルタントを行っている」であった。一方、7 以上と回答した割合が 100%であった項目は 31 項目で、このうち 19 項目が 1 回目および 2 回目の両評価において 100%であった。さらに、2 回目評価において全項目が 100%以上であった

領域は「褥瘡予防」、1項目を除き100%以上であった領域は「包括的アセスメント」「疼痛マネジメント」「せん妄」「身体抑制」「退院支援」であった。

(2) 研究2

対象者の背景

医療施設に勤務する看護師101名を対象に無記名の自記式質問紙調査を行った。対象者の平均年齢は39.5歳、性別は女性が92%、経験年数は平均14.5年であった。

高齢者看護の実践状況

対象者の50%以上が実施していた項目は4項目で清潔ケア領域2項目「入浴介助を要する患者の入浴を週2回以上行っている」「入浴・シャワー浴が行えない患者の清拭・陰部洗浄を1日1回以上行っている」、口腔ケア領域「毎食後に口腔ケア、義歯の洗浄を行っている」、身体抑制領域「身体拘束を行う場合は患者本人、家族に説明を行い、文書で同意を得ている」で実施率が高かった。次いで、40%～50%未満は6項目、30%～40%未満は6項目、20%～30%未満は20項目、10%～20%未満23項目、10%未満13項目であった。実施率が低かったのは認知症ケア領域「認知症の中核症状、BPSDのアセスメントを行っている」、疼痛マネジメント領域「非薬物療法による疼痛緩和を行っている」、包括的アセスメント領域「老年症候群について定期的に評価を行っている」等であった。

5. 主な発表論文等 (研究代表者は下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

松井美帆、医療施設における高齢者看護の質評価指標の検討、老年看護学、査読有、2018、印刷中。

野村佳香、松井美帆、高齢者の運動器疾患における慢性疼痛看護の現況と看護実践の質に関する調査研究、日本運動器看護学会誌、査読有、11巻、2016、37-45。

東千浩、松井美帆、療養通所介護職員の死生観およびターミナルケア態度、ホスピスケアと在宅ケア、査読有、23巻1号、

2015、21-25。

〔学会発表〕(計3件)

松井美帆、医療施設における高齢者看護の質評価指標の検討、第59回日本老年社会学会大会(名古屋)、2017年6月14日～16日

松井美帆、医療施設における高齢者看護の質評価指標の文献的検討、第36回日本看護科学学会学術集会(東京)、2016年12月10日～11日

Miho Matsui、Quality Indicators for Geriatric Nursing in Acute Care Settings、27th International Nursing Research Congress (Cape Town, South Africa)、2016年7月21日～25日

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松井 美帆 (Miho Matsui)

防衛医科大学校・医学教育部看護学科・教授
研究者番号：60346559